

良い牧者のもとに導かれ

(ヨハネ10・16〜18)

一、交わりを求められる神

キリストが十字架にかかられた前日に、十二弟子の一人であったピリポが、こんなことを語りました。「主よ、私たちに父を見せてください。そうすれば満足します」と。主は答えられました。

「ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言っているのですか」と。なぜ主イエスを見れば、神が分かるのでしょうか。理由は、イエス・キリストが神御自身だからです。父・子・聖霊なる神が、子なる神を人として遣わしてくださったからです。ゆえに、キリストを見るなら、神が見えました。もちろんだれもが分かったわけではありませんが。

イエス・キリストを遣わされた神は、天地万物をお造りになった神です。そして、私たち人間と関わり、交わることを求めておられます。そのことが、創世記を読むときに分かります。特に、神を指して「神である主」と書かれている箇所は、神がアダムと等身大で現れておられます。そして語りかけておられます。

二、良い牧者であるイエス

神と、私たち人間との関係を言います最適なたとは、神が羊飼いであって、私共が牧場の羊であるというものとと思われま。詩篇23篇に「主は私の羊飼ひ。私は乏しいことがありません。」とあります。古代イスラエルにおける羊飼ひと羊は、信頼関係で結ばれていました。主イエスもこんなことを語られました。10章3節、4節、5節です。「ヨハネ10・3〜5」と。さらにおっしゃいました。11節です。「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。」と。

きょうは冒頭で「神は交わりを求めておられる」と語り、それは、羊飼ひと羊の関係に準えられることをお語りました。その関係がどれほど深いものであるかを、主イエスは14節、15節で語っておられます。まずは、14節です。

「わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。」と。「わたしは、わたしのもの」とは、だれのことでしょうか。直接的には、主イエスをメシアと信じ、且つ慕っていた弟子たちです。その中には、主を裏切ったイスカリオテのユダも含まれています。その主が、「わたしのもの」と言われた弟子たちを、主イエスはどれくらいご存じだったのでしょうか。続く15節で語っておられます。

「す。へちやうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じです。」と。そのくらい、主イエスは弟子たちのことを知っておられるというのです。こうして、次のことばが続きます。「また、わたしは羊たちのために自分のいのちを捨てます。」と。

三、囲いに属さない羊たち

それでは、きょう与えられたテキストを見てまいりましょう。16節です。

「わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊たちがいます。それらも、わたしは導かなければなりません。その羊たちはわたしの声に聞き従います。そして、一つの群れ、一人の牧者となるのです。」と、主はおっしゃいました。

「この囲いに属さないほかの羊たち」とは、だれのことを指して語られたのでしょうか。私たち異邦人キリスト者を指していると思われま。こうして私たち、イスラエルから見ると異邦人も、声をかけられ、招かれ、一人の牧者イエス・キリストの下で、一つの群れとなったのです。「そして、一つの群れ、一人の牧者となるのです。」が、そうです。もちろん、全員がキリストのもとに集まるわけではありません。イスラエルにおいて、イエスをメシアと信じたのは弟子たちを始めとしてごく一部の人がでしたし、異邦人である私たちにおいても同じです。では、どんな人たちがキリストのもとに導かれるのでしょうか。それは、主イエス・キリストのことばに反応する人たちです。主イエスの声に耳を傾け、求道心が芽生えて、信じて水のバプテスマを受ける人たちです。

四、御父また御子との交わり

今一度、14節、15節をご覧ください。主イエスが私共を知っておられるとは、父である神が子なる神キリストを知っておられ、子なる神キリストが父である神を知っているのと同じだと言われます。そういう交わりが、へーヨハネ1・3 私たちの交わりとは、御父また御子イエス・キリストとの交わりです。」その交わりが、ここにあるのです。もちろん、自動的にある、という意味ではありません。みことばであるキリストの福音が語られ、受け入れられるとき、聖霊の働きによって、礼拝に集まった方々には——オンラインで参加している方も含めてですが——御父また御子イエス・キリストとの交わりがもたらされます。聖霊なる神の働きにより私たちは、イエス・キリストが、すなわち神が、良い牧者であると知ります。そして、主との人格的な交わりに導かれ、「きょうもイエスさまに出会えた。主からの慰めを体験できた」と経験して、礼拝から帰ることになります。それは、聖霊なる神の働きがなければ、不可能な業です。